



ブリント
ジャン=ポール・フーシェクール
テノール

繊細で気品ある歌唱、明晰な発音と力強い舞台上の存在感を兼ね備え、《プラター》タイトルロール、《ポッペアの戴冠》アルナルタや、いわゆるキャラクター役とされる《ホフマン物語》の4人の召使い、《エトワール》ウフ1世、《子どもと魔法》ティーポット/小さな老人/雨蛙、《スペインの時》トルケマダなどで国際的評価を得ている。

1987年、ウィリアム・クリスティ/レザール・フロリサンとともにオペラ・コミック座で、フレンチ・バロック流行のきっかけとなったリュリ《アティス》の歴史的再演に出演。93年、《ポッペアの戴冠》でアムステルダム歌劇場にデビュー。

96年、サイトウ・キネン・フェスティバル松本の《ティレジアスの乳房》亭主役で国際舞台にデビューし、次いでロイヤル・オペラ・ハウス、メトロポリタン歌劇場、ニューヨーク・シティ・オペラ、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座バステューユ、エクサンプロヴァンス音楽祭、ザルツブルク音楽祭、BBCプロムスに出演。これまでにデュトワ、ガーディナー、ゲルギエフ、ネゼ=セガン、レヴァイン、パッパノー、ラトルなどの指揮で、ボストン響、フランス国立管、ウィーン・フィル、BBC響、ロッテルダム・フィルと共演。

D.ボールドウィン、G.ジョンソン、J.コーエン、C.イヴァルディ、J-M.ルイサダ、S.マノフ、R.ムラロ、A.プラネス、A.タロー、J-C.ペヌティエなどのピアニストと、フローレンス・グールド・ホール、カーネギーホール、ウィグモア・ホールなどでリサイタルを行っており、2015年にはピアニストのJ.モカデム、演出家のJ.ラコルヌリーとクロワルッス劇場で《Menu: Plaisirs》を創作し、フランス各地、ニューヨーク、ワシントンで公演を行った。

現在は後進の育成にも取り組み、11年よりリヨン歌劇場スタジオの芸術監督を務める。仏政府より国家功労勲章（シュヴァリエ）を授与。